

2017年8月1日

水素ステーション向けに使用済みプラスチック由来水素を供給開始

昭和電工株式会社（社長：森川 宏平）は、当社川崎事業所（神奈川県川崎市）で製造する使用済みプラスチック由来の低炭素水素（以下、低炭素水素）について、先月より株式会社巴商会（社長：深尾 定男、本社：東京都大田区）の新砂水素ステーション（東京都江東区）への供給を開始しました。

当社は、環境省の「平成 27 年度地域連携・低炭素水素技術実証事業」に「使用済プラスチック由来低炭素水素を活用した地域循環型水素地産地消モデル実証事業」が採択され、2015年7月より川崎市と低炭素水素社会の実現に向けた連携・協力*を進めています。本実証事業において当社は、2020年3月までの5年間で①燃料電池（以下、FC）および燃料電池車（以下、FCV）に適した水素の精製、②臨海部（殿町）へのパイプラインでの供給、③FC およびFCVでの利用実証を行い、低炭素水素のサプライチェーンモデルを地域で構築することを計画しております。

今回の低炭素水素供給は、FCVでの利用実証に伴うものですが、本実証では巴商会にご協力いただき、同社の新砂水素ステーションにて水素充填を行います。

当社は、当社グループの製品・技術が、地球環境やエネルギー・資源問題等の社会的課題の解決に貢献できるように事業を進めています。今後も、環境にやさしい製品および製造プロセスの開発を進め、持続可能な社会への貢献に努めてまいります。

*2015年7月28日当社プレスリリース参考

使用済みプラスチック由来の水素を活用した統合的システムの地域実証を行うもの。川崎臨海部（殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント）の需要者にパイプラインで水素を輸送し、燃料電池のエネルギーとして利用する。

以上

